

2021年3月期 決算説明会

2021年5月20日

株式会社SRAホールディングス
代表取締役社長 鹿島 亨



2021年3月期 総括

2022年3月期 計画

2021年3月期 総括

業績/前年比

- 売上高: 減収
- 粗利益: 横ばい
- 販管費: 減少
- 営業利益: 増益
- 経常利益: 増益
- 当期純利益: 増益

単位: 百万円

	2021年3月期 実績	2020年3月期 実績	差異(増減率)
売上高	39,386	43,642	△4,255
粗利益	9,503	9,588	△84
粗利益率	24.1%	22.0%	+2.1%
販管費	4,477	4,639	△162
販管费率	11.4%	10.6%	+0.8%
営業利益	5,026	4,948	+77
営業利益率	12.8%	11.3%	+1.5%
経常利益	5,268	4,951	+316
経常利益率	13.4%	11.3%	+2.1%
当期純利益	3,073	▲612	+3,686
1株当たり当期純利益	249.12円	▲49.68円	—

業績/業績予想(2020年5月発表)比較

- 営業利益、経常利益:達成 … いずれも過去最高
- 売上、当期純利益:未達 … 当期純利益は過去最高

単位:百万円

	2021年3月期		
	実績	業績予想 (2020年5月発表)	差異(増減率)
売上高	39,386	42,700	△3,314(△7.8%)
営業利益	5,026	4,500	+526(+11.7%)
経常利益	5,268	4,500	+768(+17.1%)
当期純利益	3,073	3,150	△77(△2.4%)
1株当たり当期純利益	249.12円	255.34円	—

売上高/セグメント別(前年比)

- 開発事業：6.3%減少 … サービス業が増加したものの、製造業が減少
- 運用・構築事業：3.9%増加 … 企業向けが増加
- 販売事業：18.9%減少 … AIT、SRA、海外子会社で減少

単位：百万円

	2021年3月期 実績	2020年3月期 実績	差異(増減率)
開発事業	20,704	22,104	△1,400 (△6.3%)
運用・構築事業	5,500	5,292	+208 (+3.9%)
販売事業	13,181	16,245	△3,064(△18.9%)
合計	39,386	43,642	△4,256 (△9.8%)

売上高/顧客業種別

単位:百万円

	開発事業		運用・構築事業	
	2021年3月期実績	2020年3月期実績	2021年3月期実績	2020年3月期実績
製造業	7,712	8,862	1,297	1,164
通信	425	481	754	673
電力・ガス	1,015	1,219	1	15
金融	5,660	5,710	1,377	1,323
生損保	453	438	186	177
流通	953	1,069	25	42
大学等	867	1,045	983	1,023
ハードメーカー	338	520	81	82
情報サービス	739	426	383	519
サービス他	2,535	2,329	409	269
合計	20,704	22,104	5,500	5,292

販売事業: 前年比 減少(△18.9%)

AIT 販売事業 売上高

単位:百万円

2021年3月期 実績	2020年3月期 実績	差異
9,963	12,032	△2,068(△17.2%)

◎ 機器販売を中心とした前期の大型案件の反動減

SRA 販売事業 売上高

単位:百万円

2021年3月期 実績	2020年3月期 実績	差異
1,563	1,943	△380(△19.6%)

◎ 機器販売が減少

収益分析(前年比)

- **粗利益** 横ばい 9,503百万円 Δ 84百万円(Δ 0.9%)
粗利益率 22.0% \rightarrow 24.1% ※過去最高
〔主な要因〕 高付加価値ビジネスへの移行推進
- **営業利益** 増益 5,026百万円 +77百万円(+1.6%)
営業利益率: 11.3% \rightarrow 12.8%
〔主な要因〕 コロナ起因による営業活動の効率化
- **経常利益** 増益 5,268百万円 +316百万円(+6.4%)
経常利益率: 11.3% \rightarrow 13.4%
〔主な要因〕 営業外収益(為替差益)の増加
- **当期純利益** 増益 3,073百万円 +3,686百万円(-)
〔主な要因〕 投資有価証券評価損の大幅減

利益、利益率
ともに
過去最高

参考:グループ会社実績

単位:百万円

		2021年3月期	2020年3月期
SRA	売上高	19,093	19,880
	経常利益	3,285	3,561
AIT	売上高	12,367	14,230
	経常利益	1,403	1,405
ソフトウェア・サイエンス	売上高	2,370	2,744
	経常利益	260	355
SRA西日本	売上高	1,333	1,277
	経常利益	235	193
SRA東北	売上高	1,375	1,602
	経常利益	259	294
SRAアメリカ SRAヨーロッパ	売上高	985	1,304
	経常利益	149	175
SRA OSS	売上高	1,889	2,497
	経常利益	▲73	▲368
その他の会社	売上高	1,464	1,466
	経常利益	111	104
グループ会社合計 (SRAを除く)	売上高	21,787	25,122
	経常利益	2,345	2,160

太字:前年同期比で増

- **直接的な影響**(テレワーク、自宅待機)は限定的だったが、
営業活動では、提案の機会が減少
提案ができてでも対面で顧客と話ができない
次の段階に進むために時間がかかる.....
→ 「新規案件」/「新規顧客」の獲得が難しい状況
- **アカウントマネージャー制**により、お客様の身近で営業活動可能
→ 「既存顧客」からの引合いは堅調
- 「**運用・構築**」では、テレワーク対応需要もあり堅調に成長

2022年3月期 計画

2022年3月期 計画

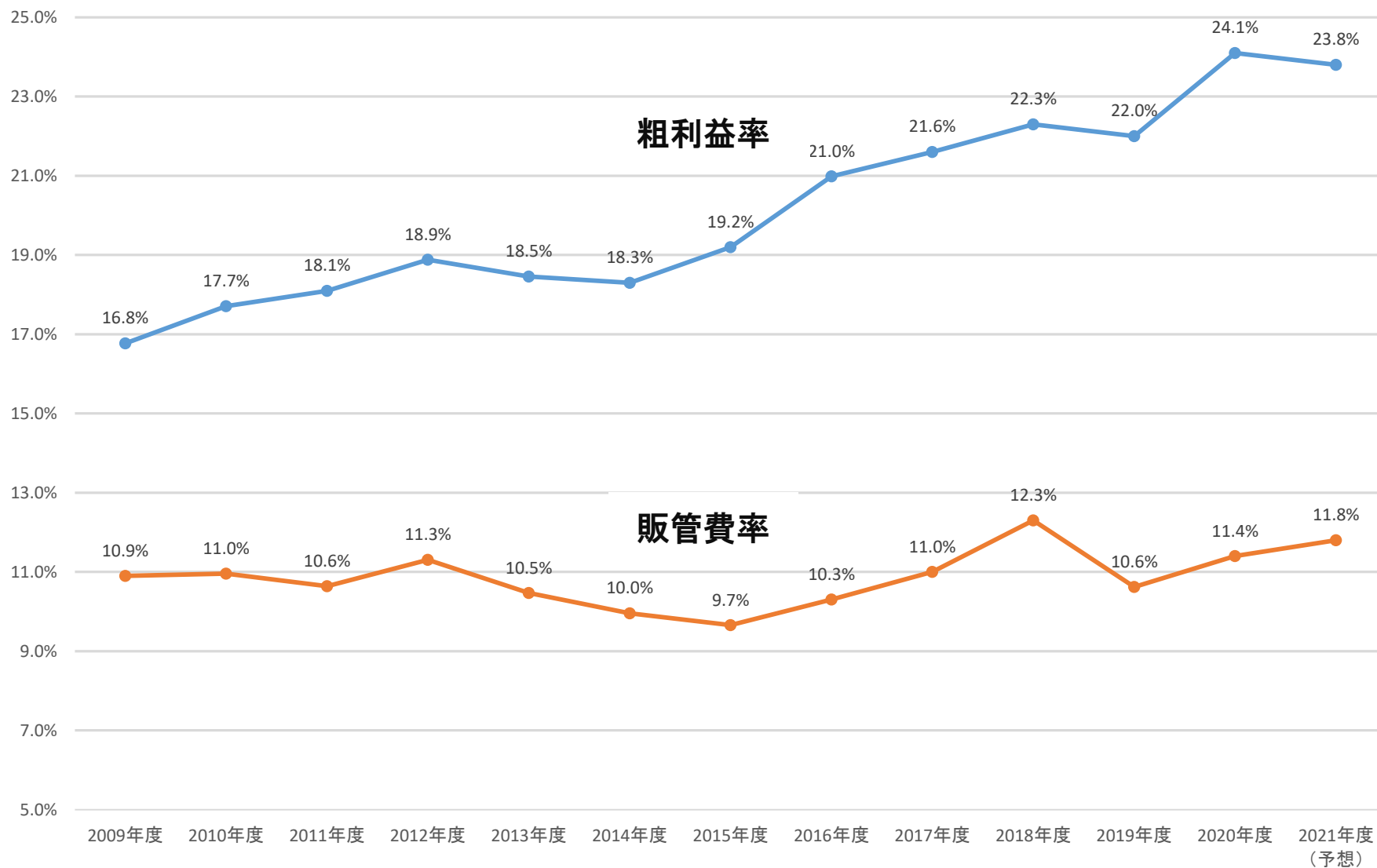
※2022年3月期計画 販売管理費には「投資」を含む

単位:百万円

	2022年3月期 計画	2021年3月期 実績	差 異
売上高	42,000	39,386	+2,613
粗利益	10,000	9,503	+496
粗利益率	23.8%	24.1%	△0.3%
販売管理費	4,940	4,477	+463
販管費率	11.8%	11.4%	+0.4%
営業利益	5,060	5,026	+33
営業利益率	12.0%	12.8%	△0.7%
経常利益	4,760	5,268	△508
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,950	3,073	△123
1株当たり当期純利益	239.11円	249.12	△10.01
1株当たり配当金	120円(普通配当)	120円(普通配当)	-

(注) 2022年3月期計画は、新型コロナウイルス感染症の収束時期を合理的に見積もることができないため、確度の高い業績予想を算出することは難しく、現時点で想定できる影響額のみを踏まえたものとなっています。今後の新型コロナウイルス感染症の収束状況により、業績予想を変更する可能性があります。

参考：粗利益率と販管費率の推移(連結) 2009年度～2021年度



セグメント別 売上高

単位：百万円

	2022年3月期 計 画	2021年3月期 実 績	差 異
開発事業	22,900	20,704	+2,195
運用・構築事業	6,000	5,500	+499
販売事業	13,100	13,181	△81
合 計	42,000	39,386	+2,613

主要グループ会社別 売上高

単位：百万円

	2022年3月期 計 画	2021年3月期 実 績	差 異
(株)SRA	19,900	19,093	+806
(株)AIT	12,550	12,367	+183
国内子会社	5,400	5,079	+320
海外子会社	4,450	3,759	+691

※連結相殺前の数値

今後の取り組み

粗利益・営業利益の確保／収益性の向上

方針：着実な粗利益・営業利益の確保を進める
収益性向上施策は成果が出ている ⇒ 更なる推進

年度	2018	2019	2020
売上高	40,793	43,642	39,386
粗利益	9,086	9,588	9,503
営業利益(営業利益率)	4,078(10.0%)	4,948(11.3%)	5,026(12.8%)

単位：百万円

「高収益ビジネスへのシフト」をさらに推進すると共に
下記の施策にも注力する

- ・徹底したリスク管理・販管費の抑制
- ・納期厳守・高品質・生産効率向上(ツール活用)
- ・不採算／低採算プロジェクトの撲滅

受注の確保／高収益ビジネスへのシフト

方針：成長領域(クラウド、DXビジネス)へのシフトの加速

〈課題〉

- ・コロナ感染長期化⇒「新規案件」/「新規顧客」の受注に影響
- ・成長領域への体制シフト

〈受注確保の取り組み〉

- ・自社IPビジネスの更なる推進
- ・グループ横断の受注、リモートワークを活用した柔軟な開発体制の構築
- ・既存顧客のシェア拡大、休眠顧客へのアプローチ
- ・医療・公共系顧客の確実な受注

成長領域での案件拡大

- ・クラウドビジネスの拡大：
 - マネージドサービス(運用、監視、障害対応)
 - クラウド構築サービス
 - クラウドネイティブ開発
- ・AI、Analytics、IoT等のDX領域技術への注力
 - IBM Watson、SPSS、Maximo
 - JUDGE!、ToDo監視などAI応用ソリューション

テレワークに伴うソリューション

- ・帳票・ワークフロー：FiBridge II、P-CON
- ・エンドポイントセキュリティー：FFRI yarai

高収益ビジネス推進に向けた組織・人材育成対応

〈アドバンスクラウドエンジニアリング事業部を新設〉

クラウドのビジネスを強化・拡大することを目的に2021年4月に「アドバンスクラウドエンジニアリング事業部」(ACE)を新設

〈DXチャレンジの推進〉

- クラウドはDXに欠かせない技術であり、コロナ禍でクラウド移行需要も拡大
- クラウド技術者育成、製品・サービス創出を目的に、前年下期から全社で“DXチャレンジ”の取り組みを開始
 - AWS認定資格者41名(2021年3月時点)
 - 中級以上の認定者が増加

◆ Cavirin Systems

〈クラウドセキュリティの重要性は、さらに増している〉

- 2019年7月から改革を実施し、体質を改善
- 2021年1月 SRAも参画し新バージョンを米国でリリース
- 2021年度 新バージョンの国内市場へのアプローチを計画中

◆ Proxim Wireless

〈無線分野のマーケットは拡大している〉

- 製造委託先Kingnet(持分法適用会社)およびSRAグループとのシナジー拡大
- 2021年から新製品を日本国内でも販売開始予定

株主還元の充実

■ 1株当たり配当金

・2020年3月期:110円

中間配当金:40円+期末配当金:70円
配当性向 1% 配当利回り:5.1%

・2021年3月期:120円

中間配当金:40円+期末配当金:80円
(期末配当 当初計画比10円増配)
配当性向 48.2% 配当利回り: 4.4%

・2022年3月期:120円(計画)

中間配当金:40円+期末配当金:80円
配当性向 50.2% 配当利回り: 1%

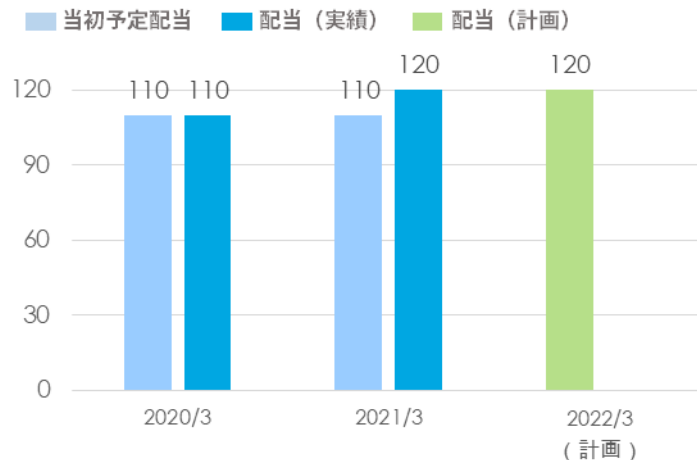
■ 連結 ROE 10%以上を持続的に確保

・2021年3月期:14.5%

・2022年3月期:13.4%(予想)

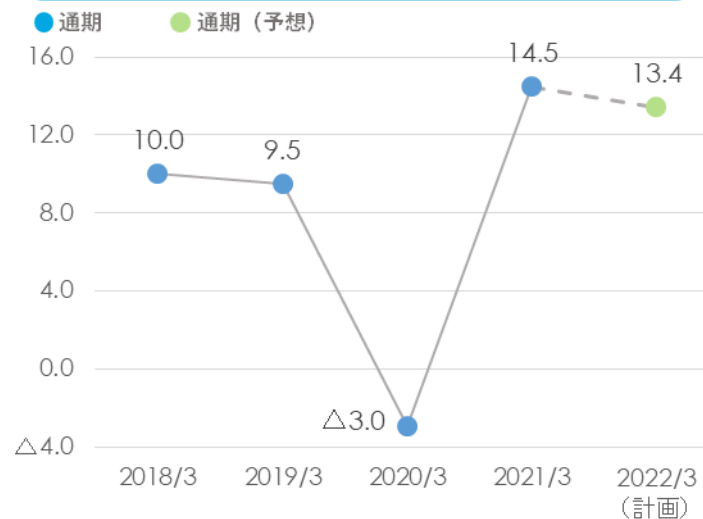
1株当たり配当金


(単位:円)



ROE (自己資本当期純利益率)

(単位:%)





「技術のSRA」として
次の50年を創る

株式会社SRAホールディングス IR・PR室

irpr@sra-hd.co.jp